

平成29年度 西都市立妻中学校 外部評価書

評価段階	4 期待以上である (80%以上)	3 ほぼ期待どおりである (50%以上80%未満)	2 ほぼ期待どおりである (20%以上50%未満)	1 改善を要する (20%未満)
------	----------------------	------------------------------	------------------------------	---------------------

評価指標	実践項目	自己評価	学校の評価コメント及び改善策等	外部評価
1 キャリア教育の推進	① 「さいと学」を核とした体験活動の推進 ② 学校行事(体育大会、文化祭、修学旅行、立志式等)を通じた人間関係形成・社会形成能力(他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション能力、チームワーク、リーダーシップなど)の育成	4.0 3.0	○ キャリア教育を意識し、各種学校行事を計画的に実施することができた。 ○ 妻高校・西都商業高校に加え、礼法指導で、日章学園高校との連携を図ることができた。今後も継続していきたい。 ○ 福祉体験学習では、講師を招いて4日間実施することで、充実した学習となった。 ○ 職場体験学習を4日間実施することができ、キャリア教育の推進につながる体験活動となった。 ○ 修学旅行が郷土以外の地域に目を向けるよい機会となるとともに、郷土を見つめ直すよい体験活動となった。 ● 諸活動のねらいの中に、キャリア教育で育むべき資質や能力をより明確にし、3年間の学習につながりをもたせることが必要である。 ● 職場体験学習の充実のために、校区内の受入れ企業や事業所を開拓するとともに、内容充実のための連携を更に図る必要がある。	4
2 確かな学力の育成	① みんなが「わかる」「できる」授業の構築 ② 『みんなでこころがけよう妻中校区9カ条』の確実な実施 ③ 家庭学習の充実と見届けの徹底	3.0 3.0 2.0	○ 学力向上のために、年間を通して、全職員で日常授業の改善に取り組んだ。一人一回の研究授業や教科部会の確実な実施等が「わかる」「できる」授業につながっている。 ○ 毎学期ごとの学習態度徹底週間において、立腰や授業態度など焦点を絞った取組を生徒の学習委員会と一緒に行うことができ、生徒の授業への取組が改善されてきた。 ○ テストごとに宅習時間の調査を実施・分析し家庭学習の改善につなげることができた。 ○ 宅習の充実へ向けて、集会指導を行うとともに参考となる宅習ノートの掲示等をおとして、意識を高めることにつながったと考える。 ● 第3火曜日のノーメディアデーの取組は呼びかけてはいるが、大半が実践に結びついていない状況にある。 ● 落ち着いたある態度で学習に取り組めるようになってきている。今後は、主体的で対話的な深い学び(アクティブラーニング)に繋がるよう、授業の工夫・改善に努めていきたい。 ● 家庭学習充実のためには、家庭での「みとどけ」を保護者と連携して行うことが必要である。	3
3 心身ともにたくましい生徒の育成	① 生活目標「時を守り、場を清め、礼を正す」の推進 ② 生徒会スローガン「飛翔」実現に向けた生徒会活動の推進 ③ 自分の健康や安全を意識して日常生活を送ることのできる生徒の育成 ④ 特別な支援の必要な生徒へのきめ細かな指導の推進	3.0 3.0 3.0 3.0	○ 三真清掃の取組が定着してきている。今後も継続して指導するとともに気づきの清掃の充実を図る。 ○ 生徒会活動の内容が全校生徒に広報できるよう、校内掲示板の設置等整備を行った。 ○ 各行事で、生徒の実行委員を中心に活動でき、生徒たちにも達成感があつたり、次の活動の更なる活性化につながっている。 ○ 生徒会や部活動単位での朝のあいさつ運動や校内での立ち止まっのあいさつがよく行われるようになってきているので、今後も継続して取り組む。 ○ 月一度のキャプテン会を行い、部活ごとの活動が活性化してきている。 ○ 支援の必要な生徒に個別指導を行うことで、基礎・基本の定着につながっているため、今後も継続して充実を図る。 ○ 通級指導担当教員の計画で、生徒を抽出し個別指導が行えるようになった。今後もさらに充実させていきたい。 ○ スクールカウンセラーによるカウンセリングや学期ごとに計画された教育相談期間での担任を中止とした相談を行うことができ、生徒の悩みにしっかりと向き合うことができた。 ○ 担当を中心に、特別支援学校のチーフコーディネータとの連携を積極的に行い、個別の支援の充実を図っている。 ● 委員会活動の活性化のために、リーダーの育成と組織や活動の流れの見直しを行うことが必要である。 ● 廊下歩行や休み時間の室内の過ごし方の指導に力を入れていく必要がある。 ● 登下校の状態がよくなりつつある。交通マナーを含め、今後も指導の充実を図る。	4
4 いじめのない安心・安全な学校づくりの推進	① 互いの生命の尊重と、いじめのない学校づくりの推進 ② 生徒の模範となる教師の言動の実施	3.0 3.0	○ 定期的ないじめアンケートの実施や教育相談を行うことで、いじめや諸問題の解決と未然防止を図ることができた。 ○ いじめや諸問題に対し、早期発見が行え、早期解決につながった。 ○ 生徒会を中心とした生徒の力によるいじめ撲滅の取組が行われつつある。今後も継続して支援する。 ○ 二学期後半から三学期にかけて学校評価の実施・分析を行うことができた。その結果を今後の学校改善につなげたい。 ○ 学期ごとにコンプライアンス研修を行い、教育職員としての意識の向上に努めることができた。日常の中でも常に心がけるような取組を継続する。 ● いじめのない学校づくりのために、時と場に応じた取組を、継続的にやっていく必要がある。 ● LINE(ライン)をはじめとするSNSに関わる問題が深刻になってきつつある。未然防止や対応を図る。	3